

リスク評価モデルの構築手順等の整理について（案）

1 リスク評価モデル構築の進め方

鶏肉を主とする畜産物中のカンピロバクター・ジェジュニ／コリに係るリスク評価（以下、「カンピロバクターリスク評価」）モデルの構築は、以下の項目に従って進める。

(1) 国内のリスク評価モデル研究成果の活用

カンピロバクターリスク評価に関する次の研究成果をリスク評価モデルの骨格として活用する。

- ①平成 19 年度食品健康影響評価技術研究「定量的リスク評価に応用可能な手法の検索、分析及び開発に関する研究（分担研究：カンピロバクターによる生鶏肉の食中毒の定量的リスクアセスメントモデルの開発）」
- ②平成 18 年度厚生労働科学研究「食品の安心・安全確保推進事業（分担研究報告：鶏肉におけるカンピロバクター食中毒の予防に関する研究）」

(2) 海外評価書等の活用

リスク評価モデルの構築に当たり、必要とされる国内のデータ等が存在しない場合には、次の手法を採用することを検討する。

- ア 海外評価事例で採用されているデータ又はモジュールの引用
- イ 専門家の知見に基づく数値の当てはめ

(3) モデル構築に当たっての検討事項

以下の項目を整理・検討の上、モデル構築を進める。その際、平成 20 年度食品健康影響評価技術研究「定量的リスク評価の有効な実践と活用のための数理解析技術の開発に関する研究」の研究途中の成果を逐次活用することとする。

- ①汚染率を指標としたモデル構築の検討
- ②用量-反応（Dose-Response）の適用についての検討
- ③関連するデータの再整理・検討
- ④モデル構築に当たって必要となる仮定の検討
- ⑤シナリオの検討：想定されるシナリオ(例)
 - ア 農場での管理
 - イ 食鳥処理場の区分（処理ライン、時間）
 - ウ 調理（生食の抑制、交差汚染の低減、加熱調理の徹底）
 - エ 食鳥処理場における塩素濃度管理
- ⑥モデルの検証方法の検討

2 モデル化によって表現するもの（アウトプット）

現状のリスク及び複数のシナリオを用いた際のリスクの推定

- ①年間発症者数（確率分布を含む）
- ②感度分析（どのシナリオがリスク低減に最も有効なのかを分析）